

看護部の20年を振り返り

板持 さとみ

キーワード：7対1看護配置；2025年問題；地域医療人育成

(雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 47-48)

はじめに

思い起こせば、医療機器2000年問題で除夜の鐘を病院で聞いたことを思い出します。

当時、公立雲南総合病院としては医師・看護師ともに医療の進歩に目を輝かせ新しい試みを展開していました。

制度の変化への適応

2002年の介護保険のスタートにあわせ、雲南圏域での当院の最適な医療はどうあるべきかの検討を始め、全職種が在宅ケアを視野に入れ、入院から退院までの連携・ネットワーク作りの必要性を感じはじめていました。

看護界では、男女雇用機会均等法による、保健師・助産師・看護師・准看護師の名称が「師」に変わったこともずいぶん懐かしく思い出します。当院では、2002年には関係者の大変な努力で療養型医療施設として回復期リハビリテーション病棟、介護療養病棟を開設、それに伴い介護職員を迎え入れ他職種とともに連携するという職場環境になり、お互いの専門性を理解しつつ共同していく意義を見いだしました。

そして、医療界に激震が走った7対1看護配置です。看護師の配置を手厚くすることで入院基本料が大きくアップするという診療報酬に、急性期病院は看護師の獲得に躍起になり、大きな病院、都会地への看護師の大移動現象がおきたのは2006年のことです。当時の当院は、最大病床数337床での運営であり、医師・看

護師ともに活気にあふれていましたがこの一大事情に当院だけでなく中小の病院は看護師離れの苦渋を味わい、以後も同様の傾向は続いています。また、2004年の医師臨床研修制度により、医師数の半減を招いています。「働けど働けど猶わが生活らくにならざり、ちっと手を見る」の言葉のように次第に病院経営にも暗雲がたち始めました。

社会の変化への適応

2010年、平成の大合併を受け、雲南地域の自治構成も変化し、5町1村から成る雲南市が誕生しました。医療情勢は厳しく雲南市の誕生を契機に雲南総合病院は、2011年4月雲南市立病院として再スタートする事になりました。医師不足・看護師不足はあらゆる場面で職員の疲弊をもたらはしましたが、少ない職員で、最大限の力を発揮するすべをここで培い現在に至っています。2025年問題が世間でもクローズアップされるようになり、さらに体制整備の必要に迫られました。職員の努力の成果として、自治体病院としての役割を遂行しつつ、経営基盤の改善は目に見えない職員の努力のたまものとして、新病院建設の青写真に着手する事が出来ました。

2014年の診療報酬改定では、地域包括ケアシステム推進の先駆けとして、医療界には地域包括ケア病棟の新設があり、当院でもいち早く取り組み、在宅療養を支援する病棟として力を発揮しています。また高齢化の影響で病院環境は大きく変化し、伴って看護師・介護士の役割も変化しています。一般病棟の減少により

雲南市立病院看護部

著者連絡先：板持さとみ 雲南市立病院看護部〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕

E-mail: kangobu@hotaru.yoitoko.jp

急性期患者の受け入れが煩雑化、適期の療養場所（病棟）の選定、入院期間の短縮化、高齢者看護の複雑化等私たち看護職は、多くの変化・適応を求められています。

病院移転から将来へ

新病院の建設を横目に見ながら、日々看護に従事する姿は、看護学生・高校生・中学生等に伝わり（図 1）、地域医療人育成が芽吹き、花が開くようになり看護師の入職希望者は増加の傾向にあります。2018年3月、



図 1 看護・助産体験実習

怒濤の業務を担い、病院移転を無事に終え瞬く間に1年が経過しました。「地域医療日本一をめざします！」の心意気に、それぞれが力を発揮出来るよう看護部では心豊かな人材育成を心がけていきたいと考えています。高齢化を人のことと考えず、自分の家族あるいは自分のこととして受け止めることで、自ずと自己の行動に責任を持つことが出来るのではないのでしょうか。認知症になっても、食事が口から食べられなくなっても家で最後まで過ごしたいと思う患者さんを私たちはどう援助していけばいいのでしょうか。

責任とやりがいを持ち、生き生きと働ける職場となるよう、人材育成に努めています。その先駆けが専門的知識を活かした活躍の場として認定看護師・専門看護師の支援を始めました。結果、現在5名の認定看護師が活動しています。また、特定行為研修の支援も行い、1名の看護師が患者と医療者の架け橋としてより良い治療の手助けをしています。こうした職員を中心に、多くの知識を得、ともに考え、行動し地域に貢献していく雲南市立病院看護部でありたいと願っています。

Twenty years review on the department of nursing care in Unnan City Hospital.

Satomi Itamochi

Department of nursing care, Unnan City Hospital

Correspondence: Satomi Itamochi, Department of nursing care, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501

E-mail: kangobu@hotaru.yoitoko.jp